



内山さとこの活動報告



内山さとこのびのび歩む会 〒180-0012 武蔵野市緑町2-3 A7-501 080-3758-1057 Email-satochi@y8.dion.ne.jp

終のすみかと支え合いのコミュニティ

9月5日から30日まで市議会第三回定例会が開かれ、平成22年度決算等の審査がされました(一般会計歳入は618億1804万円、歳出は591億3399万円)。

内山さとこは、決算特別委員として審査にあたり、認定に賛成しました。また、一人暮らしの高齢者が増え続ける中、安心して暮らせる地域での支え合いのしくみやケア付き住宅の必要性等について一般質問しました。

「今の住まいに住み続けたい」85%

市が、今年初めに行った「独居高齢者実態調査」では、住み慣れた家で暮らし続けたいという高齢者は85%を超え、公共性が高く安心して暮らせる住居を必要とする声が数多く寄せられました。

3月の東日本大震災の被災地では、住まいや生活基盤を失っただけではなく、コミュニティの再生という課題に直面しています。「住み続けたい」家とは、困った時に支え合う人と人とのコミュニティの中にこそあるのではないのでしょうか。

ひとり暮らしの高齢者6482世帯

武蔵野市の特徴のひとつは、単身世帯が半数以上を占めていることで、そのうち高齢者の単身世帯は6482世帯です。調査から一人暮らし率が高いのは、市中央部の緑町の13.8%、次いで西久保の10.4%、最も低いのは東町の5.97%です。

ところが、緑町・西久保などの中央圏には24時間体制で夜間休日、緊急時の対応をする福祉拠点がありません。夜間休日の対応は、吉祥寺南町の特別養護老人ホーム「ゆとりえ」に集約されています。

市の掲げてきた「小地域完結型」の方針に基づき、在宅介護支援センターごとに24時間体制の拠点を整備することで、住み慣れた地域の中できめ細やかなケアが可能となります。特に、一人暮らしの高齢者が多い緑町・西久保を担当する高齢者総合センターと、近隣の民間介護老人保健施設等との連携による、24時間対応の訪問機能の整備を提案しました。

福祉の人材育成とコーディネート

高齢者に限らず、社会からの疎外感・孤立感という不安、仕事と育児や介護の両立という重圧、育児・介護の虐待問題など、福祉課題は複合化・深刻化しています。

地域の社会資源や人材の連携による、きめ細やかな課題解決のしくみが必要であり、行政には、福祉の人材育成やコーディネートなどの責任が求められます。

高齢になっても障がいを持って、住み慣れた地域で、その人の意思を尊重して暮らし続ける「地域リハビリテーション」理念のもと、現在、市の健康福祉総合計画の策定が進んでいます。介護保険制度が始まってちょうど10年、来年度は2度目の制度改正となります。日常生活を過ごす地域コミュニティに、24時間安心のケア体制を充実させていく取り組みが必要です。



新潟県長岡市のサポートセンター摂田家を視察。特養とデイサービスの他、バーカウンターや子どもスペースがある共有空間には地域の人たちが集う。

～平成 22 年度決算特別委員会 PICK UP～

歳入の 6 割を市税収入が占めることが武蔵野市の財政構造の特徴ですが、近年その徴収率と歳入に占める割合が低下しています。今後、コンビニエンスストア利用など、納税しやすい環境整備を図る予定です。

都市基盤・公共施設の再整備費 20 年間で約 1600 億円

Q 平成 22 年度末で基金残高は 30 億円以上になるが、今後の都市基盤の再整備にかかる費用について、起債の必要性、補助金の活用を含めて具体的な財政計画を示すべき。

A 20 年間で約 1600 億円という財政見通しである。第五期長期計画で、今後 5 年間の財政計画を示す。

補助金のあり方を必要性・公平性・有効性・効率性の視点で見直すべき

Q 第三次行財政改革を推進するための方針とアクションプランに基づき、4 か年にわたり事務事業補助金を見直している。予算段階で、51 事業 3 億 6158 万円の節減を見込んでいたにもかかわらず、前年度より総額 2 億 4118 万円増加している理由は。

A 新たな防災拠点整備に 1 億 5 千万円の補助金を支出したことの影響が大きい。

ポリオワクチン接種の必要性について正しい情報を

Q ポリオワクチン接種率が著しく低下しているが、乳幼児期の接種の重要性について改めて周知すべき。

A より副作用の少ない不活化ワクチンの開発を待つ保護者の判断と思われるが、国の導入は早くても 2012 年度末以降であり、周知していく。

安心・安全の学校給食の継承と食育の展開を

Q 平成 22 年度は給食・食育振興事業団への学校給食の全面委託化がされたが、評価と課題は。

A 評議員会・理事会に食の専門家が入り、栄養士は引き続き市の職員として指導している。これまでの給食の技術的蓄積の継承が今後の課題である。

武蔵野市長期計画条例が継続審議に

今年 8 月、地方自治推進の観点から市町村の基本構想について、地方自治法での義務付けが廃止されました。このため、長期計画の位置づけや基本理念等の議決について条例で定めるといふものです。しかし、言葉の定義・解釈と、条例文に市民や議員の提案を拘束する恐れもあり、慎重審議をする必要があるとして、継続審議となりました。

現在策定中の第五期長期計画の議決にも影響があり、課題を整理し議論が進められています。

次回総務委員会 11 月 17 日 (木) 10:00～

おしゃべり広場にいらっしゃ～い!

と き 11 月 8 日 (火) 10 時～12 時半

と ころ 緑町パークタウン B7 号棟集会室

(市役所・市民公園の西隣 UR 団地内)

ハンディをもつ子どもの保護者同士の情報交換や、日頃の子育ての悩みや疑問を話そう! と、3 年前に始まった「しゃべり場」も 12 回目になりました。

入退場自由&参加費なし、お子さん連れでお気軽に。

主催 ボランティア「つくしんぼの会」

助言者 高橋幸三郎さん(東京家政学院大学教授)

お問い合わせ 長島 祥子 0422-51-6262

内山さとこ 080-3758-1057

東日本大震災で、照明と天井部分が崩落し改修中だった

本会議場の工事が終わり、今定例会から使用を再開しました。

「内山さとこのびのび日記」もご覧ください <http://uchiyama-satoko.cocolog-nifty.com/blog>

